

は幕を閉じました。

来年の全障スポは、滋賀県で開催されます。近畿での開催ですので、たくさんの方に現地に足を運んでいただき、活躍する選手たちを応援していただければと思います。

10月会員向け学習会「障がい者家族の高齢化」を開催しました

港育成園支部 松村 ユカ

今回は、障がい者家族の高齢化、親と子が自分らしく暮らしていくためにというテーマで開催しました。講師には、当親の会でお馴染みの…現在は(社福)大阪市障害者福祉・スポーツ協会 理事長 石田易司先生をお迎えしました。

ひと昔前。いえ、もっとそれ以前、障がい者は短命で親よりも長生きはできないと考えられていました。しかし今は、医学の発達により存命期間も伸び、70代、80代の方々もたくさんいらっしゃいます。そうすると親なき後の生活、あるいは、その逆の場合。何の心配もなく豊かに暮らしていければ…という思いをベースにお話をさせていただきました。

キーワードは「自己有能感」です。まずは、元気(豊かさ)の要素。これには、多い収入、楽しい、社会の承認(ステイタス)、社会的地位の向上(キャリアアップ)、良い人間関係など色々あります。これらは豊かさに通じ、結果的に元気になるという事例です。

次にピラミッド型の図が画面に出ました。マズローの欲求の段階とよばれ5段階に分かれています。上から①自己実現②承認の欲求③所属と愛の欲求④安全・安心の欲求⑤生理的欲求とあり、例えば、③が私たちに会員に当てはまるのではないのでしょうかと先生からの説明がありました。

戦後の福祉のながれにおいては、1960年に知的障害者福祉法、1970年に障害者基本法、1981年 国際障害者年、2000年に入り、介護保険の制定や障害者虐待防止法など、年数もそれほど経っていないことに、これ以前に生きていた人たちはきっと大変な思いで暮らされていたのだと思うと心が痛みます。

当事者主体という考え方は今では当たり前になっていますが、またこれも1981年以降にアメリカで生まれたので、日本ではもう少し後になります。先生が1981年は昭和何年ですか?との問いに昭和56年と判明。ご自身が48年生まれだから(会場の)「皆さんのお子さんはまだ生まれていませんね…」(一瞬、時が止まりました)48年は昭和ではなく1948年の間違いで会場がどっとわきました。この流れで隣に

いる人と、「子どもと生きている限り一緒に暮らしたいか、元気なうちに自立してほしいか」を話し合ってみてくださいとワークショップがありました。私たちは後者でした。しかし、自立してほしいと思っても住まいの場所が、ほとんど市内にはありません。こんな部分も親任せにしている行政の力の低下を感じます。

話は自己有能感に戻ります。自己有能感が低いと自分なんてどうせ、いじめや暴力、まわりに左右される、感情の起伏が激しい、失敗を恐れる、自分を卑下する。反対に高いと、やってみようと思える、他人を尊重する、自分の意見が言える、感情をコントロールする、挑戦しようとする、自分の良いところを知っている。とこの様に相反しています。

最後に、良い母親の条件は、協調性・社会性のある、明るく、楽しく対応できるなど、まだまだたくさんあります。自分がどれに当てはまるかはともかく、前向きに何とかなるくらいの考えを持って、良い人生を送れたと思える世の中であることを信じてこれからの人生を歩みたいと思いました。

会場内が笑顔あふれる先生のお話を初めて参加された保護者の方から「来て良かった。また、先生のお話を聞いてみたい。」と嬉しい言葉をかけていただきました。この記事を読まれている皆さんも次回は是非参加されてみてはいかがでしょうか。追記ですが、「大阪の社会福祉」という社会福祉協議会が発行している広報誌のHBというコラム欄に25年間執筆されているのは石田先生だそうです。先生、本当に素晴らしいです。拍手～!

公開セミナー2024を開催しました

副理事長兼事業統括 上宮 俊一

11月2日(日)に保護者向け公開セミナー『支援が必要な子どもの社会自立に向けて』が開催されました。お子様の年齢が幼児さんから成人された方まで幅広い年齢層で約30名の参加がありました。今回は、三部構成とし、第一部は長谷川理事長から『卒業後の進路や将来の生活を支えるサービスや制度について』、第二部は西部地域障がい者就業・生活支援センターの今井所長から『就ぼつにおける就労支援～自分を知ろう!!～』、第三部は私のほうから『一遠い将来に備えて～いくつかの制度を紹介します』の順序でお話しさせていただきました。

第一部では、中学校や高等学校などを卒業したあとの進路、利用可能な障害福祉サービスなどについて説明を行いました。つづく第二部では、就業・生活支援